

3. 3 m 柱材の需要動向と生産販売

中津川営林署 事業課生産係 ○ 各 務 正 子
販売対策委員会

1. はじめに

当署では、有利販売を最大の目的として人工林ヒノキ 3 m 柱材と 6 m 柱材を積極的に生産販売しているが、近年日本人の身長が伸びできていることやゆとり空間を望む人が多くなってきていることから、従来より天井を高くするために 3. 3 m 柱材の需要があるということを聞いている。

また、昨年に支局利用課で実施された業界に対するアンケート調査の結果を見ても 71% の業者が 3. 3 m 柱材の需要は多くなるという回答をしている。

そこで、当署では柱材の生産のうち一部について 3. 3 m 柱材の生産販売に取り組んだ。

その販売結果と 3. 3 m 柱材の公売落札業者などに対するアンケート調査の結果を分析して、5 年度以降の 3. 3 m 柱材の生産販売の基礎資料とすることを目的として取りまとめた内容について報告する。

表-1 3. 3 m 柱材の採材

2. 実施内容

(1) 生産販売

① 採材

採材については、表-1 のとおり延寸を 5 cm として、長級は 3 m 35 cm とした。

また、径級は 4 寸角挽き以上のため 16 cm ~ 22 cm とし、12 cm と 14 cm 材は従来どおり 3 m 3 cm に採材した。

② 桤積

桤積については、柱材のうち元柱の割合が 2 割程度と低いことから、表-2 のとおり元柱・中柱込みの桤とした。

また、1 桤の数量も並材が多いことや需要の動向がはっきりしていないことか

項 目	内 容
長 級	3 m 30 cm
延 寸	5 cm
延寸後の長級	3 m 35 cm
径 級	16 ~ 22 cm
12~14cmは、従来通り3m3cmに採材。	

ら、当署ではトラック1・2車分の10 m³～15 m³程度とした。

③ 数量

平成4年12月末までの生産数量は表-3のとおり約270 m³である。

また、販売数量の内訳は、当署の最終市場での素材公売が230 m³、その他輸送販売が35 m³、委託販売が5 m³である。

④ 販売結果

販売結果の分析は、数量の少ない輸送販売と委託販売を除き、当署公売の230 m³のみを対象とした。

また、3m柱材で3.3m柱材と同様に元中込み桎は販売結果と比較した。

表-2 3.3m柱材の桎積

項目	内容
銘柄(内容)	元柱・中柱込みの桎
1桎の数量	10～15 m ³

表-3 3.3m柱材の生産販売数量

項目	内容	
生産量	270 m ³	
販売内訳	当署公売	230 m ³
	輸送販売外	40 m ³

表-4 3.3mと3m柱材の販売結果

項目	3.3m柱材	3m柱材
元柱の材積率	20%	20%
平均単価	77,450	77,500

結果は、表-4のとおり3.3m柱材は元柱の材積率の平均が20%で平均単価77,450円となり、3m柱材は元柱の材積率を3.3m柱材と同じ平均20%となるように元柱の材積率が極端に高い桎と低い桎を除いて平均単価を算出すると、平均単価77,500円となり、ほとんど変わりはない。

(2) アンケート調査

① 対象

調査は、当署公売落札業者8社とたびたび一番札に近い札を入れる業者4社の計12社を対象とした。

② 内容

アンケートの内容は、表-5のとおり「年間の取扱量」「将来の需要の見通し」「積積方法つまり元柱・中柱別極か込み極か」「1極の数量は今のままか、より大口かあるいは小口か」「意見・要望」の5項目である。

表-5 アンケート調査内容

項 目	内 容
取 扱 量	年間の取扱量
将来の需要	需要は(増加、不変、減少、不明)
積 積 方 法	元柱、中柱別極、元中込極、その他
1 極 の 数 量	小口、大口、今のまま、その他
意 見 ・ 要 望	3.3m柱材の生産販売に対する意見・要望

③ 結果

a. 取扱量

年間の取扱量は、表-6のとおり12社中3社が600 m³以上取扱い、1社が200 m³、3社が50 m³、1社が20~30 m³、残りの4社が取り扱ったことがないという結果であった。

このように大きくバラツキのある結果であったことから、再度聞き取り調査を実施すると、200 m³以上取り扱う業者は、その販路を関東方面に持っており、取扱量50 m³以下の業者は、注文のない場合は取り扱わないとのことであった。

表-6 3. 3m柱材の取扱量

年間取扱量	業者数	率 (%)
600以上	3	25
200	1	8
50	3	25
20~30	1	8
0	4	34
合計	12	100

表-7 3. 3m柱材の将来の
需要見通し

需要見通し	業者数	率 (%)
増加する	6	50
変わらない	1	8
減少する	1	8
わからない	4	34
合計	12	100

b. 将来の需要の見通し

将来の需要の見通しは、表-7のとおり増加すると回答した業者は半数の6社で、減少するとの回答は1社であった。

ただし、地元での現在の需要は少なく、取扱量に反映されてはいない。

表-8 3. 3m柱材の桎積方法

桎積方法	業者数	率(%)
元柱, 中柱別桎	4	33
元中込桎	3	26
径級別の桎	1	8
無回答	4	33
合計	12	100

表-9 3. 3m柱材の1桎数量

1桎の数量	業者数	率(%)
今のままでよい	5	42
できるだけ小口	1	8
できるだけ大口	2	17
無回答	4	33
合計	12	100

c. 桎積方法

桎積方法は、表-8のとおり当署で実施した元柱・中柱込みの桎より元柱・中柱別桎と回答した業者の割合が若干多く、今後の課題となった。

d. 1桎の数量

1桎の数量は、表-9のとおり現在実施している10~15m³程度でよいとの回答が最も多くあった。

ただし、今年度は並材だったが、今後については材質により1桎の数量を検討していく必要がある。

e. 意見・要望等

代表的に意見・要望について

表-10 意見・要望等

内容	業者数	内容	業者数
もっと延寸を	2	毎月1・2桎の販売を	3
径級16・18cm中心に	3	生産販売の中止を	3
良材のみ	3	3mに製材した	2
節の多い材でもよい	1	4m柱の方が欲しい	2

は、表-10のとおりである。

延寸は、生産を決めた時点で聞き取り調査を実施して5cmとしたが、なおもう2cm程度あった方がいいという要望もあった。

径級は、製材する時の歩止りの良い16・18cmを中心にとの要望があったが、これは3m柱材にも共通することである。

材質については、注文生産をしている業者は良材のみとのことであるが、反対に取扱量の多い業者の内1社は、節の多い材でも良いとのことであった。

生産販売量については、毎月コンスタントに1・2桎という意見と生産販売の中止を望む意見とに分かれた。

また、3mに製材した業者もあり、長材であればむしろ欄間のできる4m柱材を望む業者もいた。

3. まとめ

販売結果については、材質・販売時期等同一ではないものの、3m柱材と比較して単価のメリットやデメリットは見受けられなかった。

しかし、具体的数字をあげることはできないが、同じ単価であれば30cm分だけ有利に販売できたということも考えられる。

需要動向を見ると、現在では関東方面に取引があるように聞いているが、地元ではごく少なく、関東方面に販路を確保している業者と地元などからの注文に対応している業者では、取扱量に大きな差ができています。

また、将来的需要は増加していくものと推測されるが、現在のところ急激に増加することは望めないと考えています。

このようなことから、次の事項を踏まえて適切に実施していくこととしている。

まず、桎積方法については、元柱が一定量まとまれば元柱・中柱別の桎にするよう考えています。次に、1桎の数量については、現行の10～15m³程度を考えているが、今後良材が出材できれば、できるだけ小口にするよう考えています。

そして、生産販売量については、今年度の数量をベースに、需要動向と市況動向などの情報を的確にキャッチしながら、一定量を確保していくように考えています。

販売にあたっては、継続的かつ安定的供給によって、当署の銘柄材としての定着化を図り、桎積などに一層の工夫をしてより有利販売につながるよう努力したい。

ま と め (1)

販 売 結 果

- 3 m 柱材と比較して単価的メリット・デメリットはみられなかった。
- 30 ㉿分だけ有利に販売できたとの見方もある。

現 在 の 需 要

- 関東方面には需要があるが、元元はごく少ない。

取 扱 量

- 関東方面に販路を確保している業者は多く取扱いは、
元元からの注文対応の業者の取扱量はごく少ない。

将 来 の 需 要

- 確保するものと予測されるが、議論は盛めない。

ま と め (2)

取 扱 方 法

- 元元が一定量とまれば元元・半庄別扱にする。

1 ㉿ の 数 量

- 現行の 10 ～ 15 ㉿程度とする。
- 良材は小口とする。

今 後 の 生 産 販 売

- 需要動向と市況動向に対応した生産量とする。
- 今年度の数量をベースに継続的・安定的供給が望ましい。